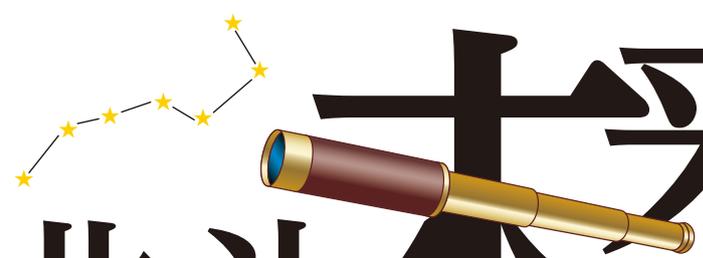


2021

01

北斗 みらい 未来 展望



Hokuto
Future
Prospects

★広報誌★ ほくと VOL. セブン 95 新年特別号

飛躍
2021



園芸療法12ヵ月 29



十勝自立支援センター
介護老人保健施設 かけはし 園芸療法士
剣持 卓也

植物のある環境や植物を育てることを用いて、対象となる方々の心身機能維持、回復に取り組む。
日本園芸療法学会認定・上級園芸療法士。

老健かけはしBlog(ブログ)
園芸療法の取り組みやかけはしのイベント情報等、随時更新。ぜひご覧ください。



contents

02 園芸療法12ヵ月
研修医日記

特集
03 これまでの歩みと
激動の2020年を振り返って

08 感染症予防への取り組み

1月「降雪祈願」

先月、道内各地では大雪に見舞われたところがあるにも関わらず、帯広市内にはほとんど雪が降りませんでした。道路に雪がないと車の運転が楽で、歩くのにも苦労がありません。除雪をする必要もなく、ただ寒さが身に染みる程度で、私たちにとってはありがたいことです。しかし、雪が降らないことは植物にとってはあまり好ましい状況ではありません。星の庭には土の中で根のまま冬を越し、春に再び芽吹いて花を咲かせる「宿根草」という植物をたくさん植えてあるのですが、雪が降らないと冷気が直接土に当たって深くまで凍らせてしまいます。いくら寒さに強い植物といっても、これではダメージを受けて生育や開花に影響が出たり、ものによっては枯れてしまったりするものもあります。雪が積もっていれば、断熱材の役割を果たすので、土が深くまでしばれてしまうのを防いでくれます。花だけでなく、秋まき小麦や長芋などの農産物への影響はより深刻ですので、雪が降って欲しいと願う方が十勝には多くおられるでしょう。

昨冬の初めも雪が少なかったので、入所されている皆さまと降雪を祈願してかまぐらの壁画を作ったところ、直後に大雪が何度か降るということがありました。雪を嫌がる方がおられるかもしれませんが、今年も降雪祈願をすることになりそうです。



大雪山黒岳での登山



チューター/
総合診療科 部長
石橋 和也先生

研修医の若林直人です。出身は千葉県で、青森県弘前大学で学生時代を過ごし、着々と北上してきています。私は幼少期から自然が好きで、豊かで文化的な北海道に憧れがあり、ここ帯広に住めることに感激しております。さて、本州と北海道の動物相を分ける線、ブラキストン線を聞いたことはあるでしょうか。北海道には「エゾ」とつく動物がたくさんいますが、似ているようで、本州とは異なる種になっています。登山や釣りが趣味の私にとって、北海道は四季それぞれに興味があります。充実した日々を過ごさせて頂きますが大変感謝申し上げます。厳冬期真っ只中ですが、どうかご自愛くださいませ。

わかばやし
なわと
若林 直人

初期臨床研修医1年目
研修医日記
Vol.9



これまでの歩みと 激動の2020年を 振り返って

社会医療法人北斗理事長

鎌田 一

新型コロナウイルスが 生み出した社会の変容と

医療・介護における諸課題

2020年1月5日、WHOから発せられた「中国・武漢における原因不明肺炎について」と題する緊急報告が世界を駆け巡りました。しかしその時点で、この報告書が全世界を震撼させる事態を次々と生み出して行くことになると、予見でき得た関係者は極めて限られていました。私自身も全体像を理解するためには、数か月の時間が必要でした。この原稿を書いている12月初旬の段階で、世界累計で新型コロナウイルス感染者数は6500万人を超え、死亡者数は150万人に至っています。また、米国の感染拡大は一日で20万人超という驚くべき惨状を呈しています。

北海道でも旭川市においては、旭川厚生病院、旭川赤十字病院、旭川市立病院など基幹病院は、新型コロナウイルスに感染した患者さん以外の方々の受け入れを制限する事態となつていきます。まさに医療崩壊そのものと言えます。そしてこの様な医療崩壊の報道は報道各紙で連日なされていきます。

また、新型コロナウイルスは感染症としてだけではなく、世界規模で生産拠点・消費拠点を蒸発させ経済・社会の根底的な変容を生み出してきています。この中でどの様な医療・介護改革を推し進めて行かなければならないのか？それはまさに2025年問題、2040年問題を人口構造上の課題として捉え、**将来の医療・介護需要を見据えた病床機能の分化・連携を指す視点**。そして、今回のような新興・再興感染症の感染拡大時に生み出される**新たな医療・介護需要に対して適切に対応して行かなければならないという視点**。この2つの視点が、21世紀の課題解決に取り組んで行く過程で、避けて前に進むことはできないものになると考えています。

地域医療の在り方

北斗病院が1993年の開院当初に開始した第二次予防医療は、発症前診断・発症前治療として位置付けられるものです。病気が発症する前に診断し治療する医療と言えます。脳ドックで発症前のくも膜下出血に繋がる未破裂脳動脈瘤が診断できれば、くも膜下出血を発症し、重篤な



1995年、カイラス棟開設



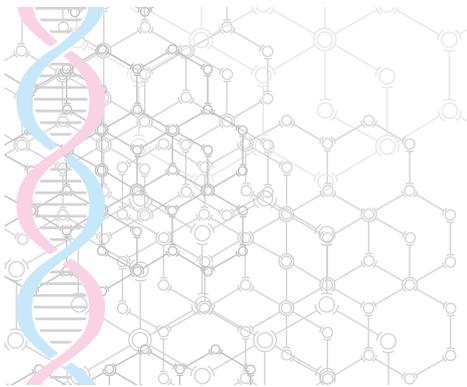
1993年、開院時の北斗病院

の十勝の地における先行モデルとして定着して行くことになりました。しかし、その時代背景は、1990年初頭のバブルの崩壊、アジアの経済危機、2000年ITバブルの崩壊そして2008年のリーマンショックへと連鎖し、世界経済は混乱を深めて行

状態になることを未然に防ぐだけではなく、地域社会の社会的損失を逡減することにもなりません。しかし、この考え方を定着させるには、地域の医療機関や医師、行政や地域住民の医学・医療に対する捉え方を大きく転換して行かなければなりません。そして彼らの理解と協力を得るための、様々な啓発活動を積極的に展開した結果、第二次予防医療はこの

く歴史的転換期でもありました。従って、医療業界にも大きな変革が求められ、がんゲノム医療の実装を急展開させ、画像診断・治療機器のイノベーションの連鎖を大きく作り出し、激しく変容して行く社会及び外部環境に対峙して行くことが迫られました。医療を受容する患者さんひとり一人に、一番適した医療の提案を行い、実践して行くことを私達医療従事者の立脚点としなければならぬと考えました。まさに私達は「プレジジョン・メディシン」という個別化医療の視点をミッションとして位置づけたのでした。

そして2020年、新型コロナウイルス感染症の発生を契機に、医療・介護の在り方そのものが根本的に創り変えられていく時代に突入して行くことになったのです。



これから求められる

医療・介護

国は医療における「三位一体の改革」として「地域医療構想」「働き方改革」「医師の偏在対策」を措定しています。

論点①

地域医療構想

一つ目の論点である地域医療構想は、数年前から2025年を目指して進められてきましたが、現在では2040年の医療提供体制の構築に向けて、三位一体の改革のひとつと捉えられています。

厚生労働省は再編・統合の検討が必要な424病院を公表し、公的・公立病院の統廃合は喫緊の課題ですが、現実的には殆ど進んでいません。全国には地域性や人口構成が異なる335の二次医療圏があり、各医療機関の医療・介護の質に相当するものも、同じではありません。二次医療圏のひとつである十勝管内には19の行政組織があります。

その中で、広尾町国民健康保険病院（広尾町国保病院）とは、3年前より地方独立行政法人化の作業に取り組み、一昨年から連携することに



2020年、現在の北斗病院



なりました。その際、単に経営面を引き受けるだけでなく、地域の医療・介護ニーズに対応するためにどう介入していくべきか考えた結果、やはり1つの行政組織だけでは完結せず、周辺地域全体で連携し、協同することが必須だと実感しました。もつと踏み込んだ形で地域の中で必要とされる医療機能をまとめ上げ、新しい提案をしていく必要があると考えています。

論点② 働き方改革

2つ目の論点である「働き方改革」は、医師・医療従事者の働き方改革です。

2024年4月から医療機関の勤務医の時間外労働は原則年960時間と上限が設定されました。医療業界や行政は総力をあげて労働時間短縮に取り組むと提言されており、この働き方改革の議論を遠ざけて今の医療を語ることはできません。

労働時間に上限が付いた環境で今までと同じように患者を受け入れていたのでは、一生懸命汗を流して頑張っている医療従事者達は疲弊してしまいます。医療の最前線では医師は医師、看護師は看護師と、それぞれの職種に定められた領域から逸脱

しない枠内で医療を行っています。非常に煩雑なことが要求される切迫した救急医療の現場では、この限定された領域を取り払っていかなければ対応しきれないことも数多くあります。例えばアメリカでは、心臓の冠動脈バイパス術で用いる体内の静脈採取は看護師が処置しています。日本でも特定の医療行為を医師に代わって看護師が担うための研修・認定制度がありますが、現場ではもつと幅広く職種を超えて協力し合う体制が必要です。それを可能にするためには、様々な情報を集約してデジタル化し、標準化された医療情報を活用することが不可欠であり、現実的にそれは可能な時代を迎えています。

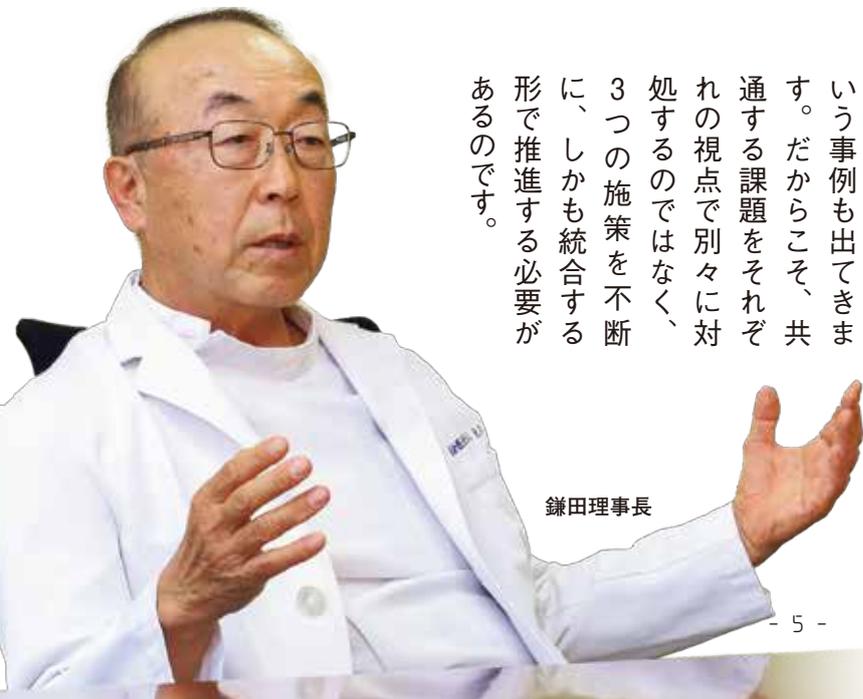
論点③ 医師の偏在対策

3つ目の論点である「医師の偏在対策」は、医師をはじめとした医療従事者の地域偏在に関わる課題です。

日本全体の病床数は人口1000人あたり13・1床ですが、それに対してアメリカは3・4床で欧州も同規模です。世界的にみても日本は人口に対して病床数が多く、従って、過剰な病床を抱えている病院が多い

のが実態です。また、ある病院においてには病床数に対して医師何人と枠を設定し配分する人員基準が岩盤規制となり、派遣されている医師が足りないから増員が必要という、今までの延長線上の考え方では問題解決に繋がりません。この環境を打開する方法は幾通りか考えられます。

例えば各所に分散している医療機能や医療従事者を集約して、チーム医療として組織化することです。場所や人材を1か所に集約して業務を効率化すれば、これまでは10人必要としていたことが3人で済むという事例も出てきます。だからこそ、共通する課題をそれぞれの視点で別々に対処するのではなく、3つの施策を不断に、しかも統合する形で推進する必要があります。



鎌田理事長



脳磁図データ研究から 認知症治療に新たな一歩

高齢化社会が進み、認知症は凄まじい勢いで増えると予測されています。昨年からは脳磁図検査で脳の働きを調べて認知症リスクを測る「脳機能ドック」を埼玉県の熊谷総合病院でスタートしました。北斗病院でも2021年から脳ドックに「脳機能ドック」を追加する予定で、既に実施している熊谷市を中心に周辺医療機関との協力体制の準備も進めています。

認知症は、現時点では特效薬がなく、リハビリテーションは軽度の認知症にしか効果がないといわれています。しかし今回、脳磁図の測定データの解析結果から、ある程度進化した認知症患者においてもリハビリテーションにより認知機能の改善がみられることが明らかになり、当院の鴨原医師が世界初の研究論文として発表しました。国際的科学雑誌「サイエンティフィック・リポーツ」で掲載されており、科学的な妥当性も認められ海外の学会からも注目を集めています。また、日本の医療機関からの反応も大きく、我々の活動に共感した複数の大学の若手医

師からも協力したいとの声が挙がっています。これからさらに多くの脳活動の変化や効果を記録した脳磁図データを集積し、認知症の進行度やパターンを分類し、AI解析を駆使することにより、早期発見や効果的な治療に繋がると期待しています。

次のQRコードより
掲載論文を参照できます



Scientific Reports



日本語訳

また5年前より導入しているNGS（次世代型遺伝子解析機）によるがん細胞の遺伝子解析は圧倒的な情報集積を生み出し、cancer agnostic approach（がん細胞の遺伝子解析を通じて、その患者さんに一番適切な抗がん剤を選択する医療）が可能な段階になってきており、がんゲノム医療の実装が今後は更に急展開を示すものと思われます。

スマートリハビリを中核とするリハビリセンター構想、FUS、EAT Surgery Center など数多くの先駆的取り組みが集積・準備されて来ています。



地域からの支援



防護服講習会





新得クリニック



広尾町国民健康保険病院

医療データ活用を広範に展開、 社会変革を図る

2021年の事業計画では、広尾町国保病院と新得クリニックと協同で「画像診断センター」を開設する予定です。広域圏の十勝管内にはCTやMRI検査の設備が整っていない公立の医療機関も存在します。

この画像診断センターを中心として、統合再編を視野に周辺医療機関と遠隔画像診断を通じた連携・協力体制の構築を目指しています。広尾町と新得町はそれぞれ人口約6千〜7千人で規模は大きくありませんが、これからの医療の先行事例と位置付けています。

実は日本の医師全体の中で呼吸器内科の医師数は少ないため、北斗病院の医師以外に本州在住の医師とタイアップして読影体制を組み建てる構想を推し進めています。こうした戦略的な提携も働き方改革の一環となると考えられます。

画像診断センターでは、身体に対する負担を極力抑えた低侵襲な検査を基本として、MRI画像やデジタル化した心電図などクオリティの高いデータを集積します。AIの存在により、患者さんの心電図からその

人に適した治療を提案することが実現可能な技術となっています。それにはある程度規模の大きな画像データベースが必要です。

さらに現在、PADRE（位相差強調画像化法）や採取した尿からマイクロRNAを解析して体の中の異変やがんの再発の有無、がん細胞の存在を検知する画期的な診断方法を考案中です。こうしたデジタル化されたデータを活用して社会変革を図る、いわゆるDX（デジタルトランスフォーメーション）が医療の現場にも登場してきています。我々は5年前より、がんゲノム医療の実装を立脚点として、遺伝子データや画像診断情報の蓄積と研究を進めてきました。この活動を更に加速するため、我々の考えに賛同する医療従事者を増員する活動を続けながら、これからも絶えずデータを集積して個別化医療を推進するプロバイダー（提供者）・クリエイター（創造者）組織として飛躍して行かなければなりません。まさに不断に、医学・医療のイノベーションを創出し、医療・介護事業組織の組織価値を高めて行く私達の実践的立脚点が「プレジジョン・メディシン」と言えます。



スマートVR



感染対策



PCR検査機

2021年
あけましておめでとうございます



本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます
社会医療法人 北斗
理事長 鎌田 一

2021年1月15日発行

発行: 社会医療法人 北斗
発行人: 鎌田 一

責任者: 久保田 亨
編集長: 伊藤 慎

〒080-0833 帯広市稲田町基線7番地5
☎0155-48-8000 FAX0155-49-2121

NEW

医師着任のご案内



麻酔科 医師
望月 宏樹
Mochizuki Hiroki

麻酔科標榜医、日本麻酔科学会、
日本集中治療医学会、日本救急
医学会、日本DMAT隊員

スマートな検診

SMILE

ドック

2021年
4/1
より

新得クリニックと
広尾町国保病院で開始!

約1時間

脳

15,000円(税別)

約2時間

がん

15,000円(税別)

約1.5時間

心臓

15,000円(税別)

3つ
まとめて

脳・がん・心臓

30,000円(税別)

約2.5時間

お気軽にお問い合わせください
すべてのお問い合わせ ☎0155-48-8000〈北斗コールセンター〉



- 関連施設
- 北斗病院.....(帯広市)
 - 北斗クリニック.....(帯広市)
 - 十勝リハビリテーションセンター.....(帯広市)
 - サービス付き高齢者向け住宅 あやとり.....(帯広市)
 - 十勝自立支援センター介護老人保健施設 かけはし.....(帯広市)
 - ほくと自立支援ホーム/カンタキあおぞら.....(帯広市)
 - 上士幌クリニック/介護老人保健施設かみしほろ(上士幌町)
 - 新得クリニック.....(新得町)
 - 熊谷総合病院.....(埼玉県熊谷市)
 - HOKUTO画像診断センター.....(ロシア・ウラジオストク)
 - HOKUTOリハビリテーションセンター(ロシア・ウラジオストク)